

1 テーマ

鳥取県の南西部で栄えた産業遺産の「たたら」。その長い歴史の1ページを飾るに相応しい「鉄山師・木下家」の貴重な「遺産」を永く、後世に伝えることをテーマにして2以下で述べる事業すべてに「たたらカラー」を織り込む。

ネーミング 木下家 を やまし さと きのした  
鉄山師の郷 木下 とする

2 施設をどのように改修してどのように利用していくか。

- 1) 宿泊施設(洋式化・ベッド) 宿泊可能人員は10名以内。
- 2) イベント会場施設を設置し、現在の新座敷は会議専用室。
- 3) たたら関連用具、明治以降の生活関連用具展示館設置。
- 4) 屋外トイレの新設(土足で利用可能なもの・最低3ブース)
- 5) 露天風呂(釜焚き)の新設。
- 6) サイクル収納施設の新設。

利用方法詳細

- 1) 宿泊施設
  - ① 宿泊機能を持たせ、一般旅行者はもとより援農者、イベント参加者にも提供する。
    - ・「境港市民の森」の利用を復活させ、境港市と「利用協定」を締結し、同市民対象とした宿泊施設。
    - ・田畑耕作・リンゴ・ネギ栽培農家の援農者向けの長期、格安宿泊特典施設。
    - ・船通山のカタクリ開花時期、7月28日の宣揚祭参加者向け宿泊施設。
    - ・2カ月に1回開催の「たたら塾」(1泊2日コース)参加塾生用に使用。
    - ・町内、隣接県エリア、米子へのコースを利用したサイクリングファンに提供。

イベント名	記 事
たたら塾	「木下家」の保存・維持を担うイベントと位置付ける 4月～10月 偶数月の第2土・日曜日(1泊2日)開塾。 地元たたら伝承者+伯耆国たたら顕彰会+奥日野ガイド倶楽部等の関係者に講師依頼し、講座と現場見学を備えたゼミ開催。 大宮楽舎・羽内谷鉄穴流し跡・砺波たたら跡・深塚・安綱塚等の豊富な現地見学候補地の有効活用を志向する。 <b>※木下家運営のバックボーンと位置付ける</b>
百人一首かるた会	日南町に「かるた」文化を創造する。
月見の宴	9月開催 ※ 特産グループ共催
漬物講習会	11月開催 ※ 特産グループ共催
正月準備会	12月第1日曜日開催(注連縄づくり)
コンサート	年2回開催 手作りのコンサート文化を創造する。
山登りの会	御墓山～猿隠山縦走ツアー(四季) ※奥日野ガイド倶楽部共催 船通山登山(カタクリ祭り) 船通山登山(7月28日宣揚祭参加)
大人の遠足	年2回開催 ※奥日野ガイド倶楽部共催 (羽内谷鉄穴流し場をコースに編入)
サイクリング・イベント	・鳥取県が取り組むサイクリングコース造成企画に参加。 例 ダウンヒル・コース(木下家先の県境から皆生・境港まで) 町内のサイクル基地として利活用。
舌鼓をうつ会	地元の食材提供イベント ※特産グループ共催 ・山野草の天ぷら ・香茸おこわを食する会 ・特産ネギを食する会 ・阿毘縁リンゴを食する会
親子の遠足会	・200年の森・上阿毘縁神社活用
旧暦カレンダーを知る会	・旧暦のカレンダーに基づき24節気を学ぶ集いを開催。 ・雛人形展示・・・町内の雛人形を一堂に集めて展示。

- ② イベント開催スペース提供。
- ③ たたら展示館 施設見学・・・通年
- ④ 援農ボランティア斡旋 (畑作・ネギ・リンゴ栽培農家支援窓口業務)
- ⑤ 付帯 (物販活用)

### 3 誰がどのように運営するか

**運営主体** 公営・民営問わず、運営テーマを实践出来る個人、団体  
木下家の維持目的を遵守してもらうためには、上記の方針を十分理解された者の運営、管理が必須条件となる。  
管理者の募集に際しては、現下のコロナ禍で失職した人、都市から地方への移住希望者、地震・津波・原発事故による帰還困難者等の支援を視野に受け入れの間口を広げて募集を行う。

#### 運営方法 集客

- ① 境港市との連携を強化  
「境港市民の山」の交流復活。(境港市と阿毘縁地区との利用協定締結)  
境港市民の憩いの場所と位置付け、同市民を各種イベント共催の参加軸とする。
- ② 周辺自治体(米子市・日野郡2町・安来市・奥出雲町との連携強化)
- ③ 町内の住民同士の交流の活発化  
24節気を大切にし、1例として「雛展示」を中心に町内の住民同士の交流の場に。
- ④ 先行団体とのイベント協働  
伯耆国たたら顕彰会・奥日野ガイド倶楽部・阿毘縁特産グループ等が開催するイベントとの協働。
- ⑤ 米子発の各種ツアーバスの運行  
※高齢化に伴う交通弱者(免許返上者を含む)の増加を見込んだツアー造成  
実施(案)例
  - ・ たたら関連ツアー(呼子たたら跡・吉たたら跡・大宮楽舎・安綱塚・砺波たたら跡)
  - ・ 古民家ツアー(ときわすれ清水屋・古民家かつみや・青戸家・木下家)
  - ・ 解脱寺参詣ツアー

米子から国道180号線沿いに清水屋・かつみや・吉たたら・大宮楽舎・安綱塚・深谷・木下家・砺波たたら跡とルート沿いに多くのたたら関連フィールドがあり、木下家と併せ新たなツアーを造成する。

※施設管理者にイベントの企画、運営まで負わせるとこれだけのイベントの開催は不可能であり、息切れすることは明白である。  
イベントの開催に当たっては、既存の先行組織との共同開催を旨とする。新たなプレイスタイルを前提に運営する。

### 4 提案を利用することによる日南町にもたらす効果

- ① 日南町はかつての産業遺産である「たたら」のメッカであり、その中心にあった木下家で宿泊、各種イベントを開催して交流人口の増加が期待できる。
- ② 交流人口の増加に伴い、イベントを支える町民パワーの発揚が期待できる。
- ③ 交流人口の増加に伴う地域経済活動が活発化し、相乗効果が期待できる。
- ④ 木下家を主会場にコンサート・百人一首かるた会を開催し、日南町の新たな文化創造活動を展開し、町に活気をもたらし、町の知名度アップに繋がる。
- ⑤ 古民家ネットの整備拡充を図り、古民家の積極的活用に繋げ過疎対策の成功例を作り上げ日南町の知名度アップに繋がる。

※ 解説 現在の古民家ネット

日南町 ときわすれ清水屋・古民家かつみや(国登録有形文化財) 2軒  
日野町 古民家「沙々樹」(国登録有形文化財) 1軒

日南町内で所有者不在で管理委託されている家屋

大宮 青戸家

※ 精査すれば該当物件は増加すると思料される。家屋の後継者問題は深刻化しており、住民の関心のあるところである。

※ 文中表記した協働組織は例として挙げたものであり、事前の接触はない。

## 1 交流人口への思い

維持管理が難しくなり管理者を求める「古民家」は今後も続出することは容易に想像ができる。木下家単独の利活用で効果が出るとは考えにくい。

現在、日南町内で独自路線で「古民家」事業を進めている古民家かつみや・ときわすれ清水屋に木下家も加え、線として「古民家ライン」(何れは古民家ゾーンを形成する)を軸として、メニュー造成を図る。

※ JR米子駅から国道180号線を南下し、ときわすれ清水屋・古民家かつみや・木下家と1本の道でつながり、格好のドライブコースとなる。

更に途中の見所として、呼子たたら・吉たたら・たたら楽校大宮楽舎・安綱塚と「たたら」に関する豊富な資料を理解していただけるフィールドがあり、木下家の利活用の軸となる「たたら」に十分条件を具備している。

「たたら」を理解してもらうにこれだけの条件を備えたエリアは他にみることが出来ないと言っても過言ではない。

単なる宿泊施設にとどまらず、「たたら」関連のイベントに積極的に関わり、更には施設の管理者の枠を超えた先行団体のイベント会場としての交流人口を生み出すイベント委託方式を採用することも一計である。

木下家そのものの施設整備も重要課題であるが、木下家周辺の「たたら関連施設」の充実化を視野に入れば住民の理解、協力が得られやすくなる利点もある。

例としては、砺波の鉄穴流し遺構の復活であるとか、菅沢から島根県伯太町小竹に通じる鉄の輸送ルートの説明板の設置等環境整備も同時進行で進める必要がある。